

飛騨高山



残したい  
想いと風景

高山市  
丹生川町

五色ヶ原の森案内人

上平 かみひら

尚さん たかし

素晴らしい乗鞍岳の自然を

守っていかんなんらんといい想いと

みんなに見にきてほしいという想い

正反対のようやけど、

知恵を出せばどちらもうんや



## 保護と利用の両立

乗鞍岳の裾野・丹生川町  
久手に暮らす上平尚さんは、  
夏は登山客、冬はスキー客  
を迎える山の案内人です。

「乗鞍スカイライン」や「五  
色ヶ原の森」の立ち上げ当  
初より関わり、環境を守り  
ながら観光での恩恵を受け  
る道を模索してきました。

## 環境を守るための決断

乗鞍スカイラインは、元  
は戦争中に作られた「乗鞍航  
空実験所」のための軍用道路  
でした。戦後に観光用の有  
料道路となり、高山帯まで  
自家用車で登っていきけるこ  
とで人気を集めました。

しかし、たびたび渋滞が  
起き、ゴミを捨てる、トイ  
レまで我慢できず側溝で排

泄するなどのマナー違反も  
起きてしまいました。

平成15年には整備した資  
金を有料道路として回収する  
「償還（しょうかん）期間」が  
終わり無料化されることに  
なりましたが、さらに環境  
への影響が心配されたため、  
自家用車の通行を制限する  
「マイカー規制」の案が出ま  
した。

観光面で不利になること  
で反対が出るのではないか  
と思われましたが、当時の  
丹生川村では「乗鞍の自然  
を守る会」や「乗鞍美化の会」  
が活動し、環境を守ろうと  
いう意識が育っていたこと  
で、マイカー規制が実現し  
ました。

手前の駐車場でバスに乗  
り換える方法で現在まで運  
用され、自然環境も改善し  
ています。



乗鞍スカイライン



平湯峠(標高1,684m)～乗鞍畳平(標高2,702m)  
雲の上を走る約15 kmの自動車道



## 信仰の山

古くから飛騨の人々は朝  
日が昇る乗鞍岳に手を合  
わせ大切にしていました。

## 科学の山

戦争中に軍の乗鞍航空実験所が  
作られました。戦後はコロナ観  
測所や宇宙線観測所で研究が行  
われるようになりました。

## そして観光の山に

戦後まもなく「濃飛乗合  
自動車」初代社長の上嶋  
清一氏が尽力し、軍用道  
路の道幅を拡張。

観光用道路「乗鞍スカイ  
ライン」として登客に愛  
される現在の姿になりま  
した。

## 五色ヶ原の森

「見る・聞く・触れる・浴びる・香る」

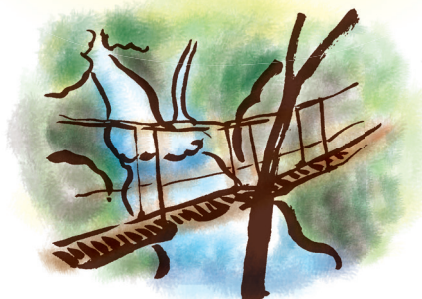
森の刺激を全身で感じられる

3つのコースがあります



### カモシカコース

乗鞍火山の恩恵で出来た柱状節理と4つの大きな滝を、水しぶきを浴びるほどの間近に眺められます。



### シラビソコース

4つの池、源流、伏流水が流れ落ちる滝と、さまざまな水風景を楽しめます。



### ゴスワラコース

乗鞍の最奥部に広がる自然のままの原生林で、巨木や巨岩に出会う特別な体験ができます。

## 準備期間の苦労

調査と道作りには3年間もの期間がかかりました。国有林、市有林、会社、個人、共有と5種類の地主からそれぞれ理解を得ながら散策路を整備しました。

## 専門家との出会い

登山家の野口健氏が丹生川に訪れた際に聞いた富士山の話が観光利用を目指すきっかけに。植物学者の宮脇昭氏からは自然利用の精神を学びました。

## 活かされる経験

保護と利用を両立するために試行錯誤した乗鞍スカイラインでの経験は、乗鞍山麓にある五色ヶ原の森の運用にも活かされています。

開山前には専門家による植生調査を行った上で、環境を考慮しながら特徴が違う3つのコースを整備しました。また、人数制限やガイドと一緒にないと入山できないという制限を設定し、多くの人がこれを理解した上で森林体験を楽しんでいます。

「人が森から利益を受け取るだけでなく、動物も植物も共に生きられる命豊かな森がずっと続いていくように」という信念のもと、持続的な自然の活用を目指しています。

いま、  
伝えたいこと



（文・絵  
画 大森貴  
高山市）

飛騨人は田炉裏を使っていた時代から、初夏には朴葉で田植え餅を包んで、正月には楓の枝に花餅を飾ってや暮らしとった。山の恩恵を受けながら共に生きる心があるんやさ。

五色ヶ原を調査された植物学者の宮脇昭さんは、自然の保護と利用は「元手を食い潰さずに、利息で食いつないでいく」精神が大切やと言ったよ。そういう心を持った子どもたちが育っていってくれることが一番の願いやな。